



大分合同新聞
2023年
11月8日(水)
朝刊 1,21面

大分合同新聞
ワークシート

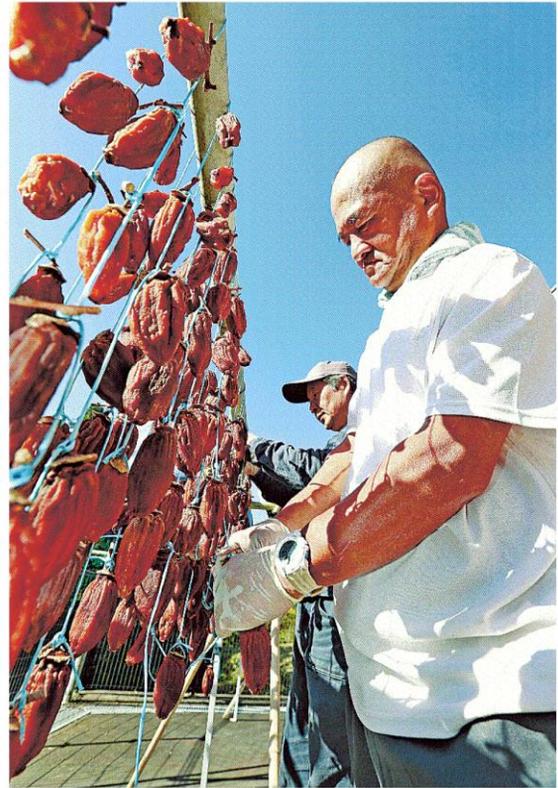
年 組 氏名

東西南北

2023.11.8

七十二候「山茶始開」の時季。ここで言う「つばき」はサザンカのこと。中国では椿のことを山茶花といい、サンサカが転じたというのが通説。江戸時代の園芸書には茶山茶とも書かれており、誤記が重なったためとする説や和名に当てはめる過程で混同したという論も▼室町時代ごろから植栽されていた日本の野生種だが、人が出たのは江戸時代から。徳川11代将軍の家斉が特に好んだことから栽培ブームが起った。野生種は白。色付きは園芸品種で300種類以上ある。大分市の市花▼Jポップバンド「SEKAI NO OWARI」の曲「サザンカ」は夢に向かって頑張る人を励ます応援歌だ。歌詞

に花は登場しない。花言葉の「いたむきさ」「困難に打ち勝つ」から着想を得たのだろう。へいつだつて物語の主人公が立ち上がる限り物語は続くんだ▼見分けがつかないほど似ている椿との違いは咲く時期と散るさま。家斉は徳川15代の治世で最も長い約50年にわたって将軍を務めたが、贅沢を好んで財政を破綻させた。明るい春に咲く椿を好みそうだが、実は厳しい冬に耐えて花開くサザンカに憧れていたのかも。しれない▼うまくいくことはかりではない。間違ってしまうこともある。冬来たりなば春遠からじ。キミが立ち上がる限り物語は続く。花は咲く。(I)



干し柿の手入れをする障害者福祉施設「ハートピアきむれ」の利用者 7日午後、竹田市飛田川、撮影・江藤成吾

8日は二十四節気の「立冬」。暦の上では冬が始まる頃とされる。

竹田市飛田川の障害者福祉施設「ハートピアきむれ」では干し柿作りが始まっていた。7日午後、竹ざおにつるされたオレンジ色の実には太陽の光を浴びて輝き、甘みを蓄えていた。

今季は10月中旬から作業に取りかかったという。施設利用者が手入れし、仕上

きょう「立冬」

がった約400個を道の駅などで販売する予定。

利用者の堀宗寿さん(62)は「一つ一つ愛情を込めた。香ばしく、甘い実を楽しんでほしい」と願う。

大分地方气象台によると、8日の県内は高気圧に覆われて晴れる予想。放射冷却の影響で朝晩は冷え込み、最低気温が平年を下回りそう。(佐藤光里)

愛情蓄え 甘く

〔問①〕 11月8日は二十四節気の「立冬」です。七十二候では？

山茶開始 (つばきはじめてひらく)

〔問②〕 「二十四節気」と「七十二候」とは？調べてみよう。

(解答例)
1年を春夏秋冬の4つに分けたものを

「四季」、24に分けたものを「二十四節気」

72に分けたものを「七十二候」といいます。

〔問③〕 二十四節気や七十二候、ほかにどのようなものがあるか調べてみよう。その時季の行事や風物詩はどういったものがあるか調べてみよう。

自由記述